

—あおぞら—

「大気環境未来60」募金の運用

公益社団法人大気環境学会副会長
「大気環境未来60」募金審査委員会委員長
近藤 明

大気環境学会が2019年12月に創立60周年を迎えることを記念して、2018年4月から2020年3月まで「大気環境未来60」募金をお願いしました。この期間に、多くの企業の方から、また多くの会員の皆様からご厚意を頂き、およそ300万円の募金が集まりました。

募金の開始にあたって「大気環境未来60」募金規程を、2017年12月に制定いたしました。規程の第3条では、この募金の運用対象事業を、①小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙活動、②大気環境に関する研究に従事する若手研究者の育成、③大気環境に関する国際交流(特に日中韓交流)の支援の3つと定め、規程の第4条では、運用は2019年度から開始し10年間で終了とするとし、また規程の第5条では、事業への応募方法を、規定第6条では、「大気環境未来60」募金支給候補者の選考は、「大気環境未来60」募金審査委員会が行うと決めました。

応募するには、申請書を学会HPからダウンロードし、必要な項目の記入が必要です。申請書に記入すべき項目は、1.申請者に関する事項、2.申請者の研究に関する事項、3.申請する「大気環境未来60」募金規程に定める事業の選択、4.事業課題名、5.事業の概要(400字以内)、6.事業の目的(400字以内)、7.事業の方法(800字以内)、8.事業の必要性及び期待される成果(800字以内)、9.事業の特色・独創的な点(800字以内)、10.所要経費の10項目です。

2019年度に1回目の公募を実施し、2件の応募があり採択されました。

1つは、大気環境に関する国際交流、特に日中韓交流に関する事業で、事業課題名は、日中韓国際シンポジウム「For a better understanding of air pollution in East Asia」の開催でした。助成金は、大気環境学会創立60周年年度に東京農工大学で開催された大気環境学会年会において成功裏に実施された日中韓国際シンポジウムの講演者の旅費に充当されまし

た。もう1つは、小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙事業で、事業課題名は、都市部におけるPM_{2.5}の測定及び評価による大気環境の知見の共有と啓発、持続可能な社会の構築に寄与できる人材の育成でした。高校生の生活空間(例えば下足室、体育館、会議室、更衣室、中庭)と通学空間(例えば公園、川沿い、地下鉄出入口、地下鉄駅構内)で、PM_{2.5}濃度を測定する内容で、測定を実施した高校生により2019年12月の大気環境学会近畿支部学術発表会で披露されました。助成金は、ポケットPM_{2.5}センサーと接続用のスマートフォンの購入に充当されました。

2020年度に2回目の公募を実施しましたが、残念ながらコロナ禍の影響により応募がありませんでした。

2021年度に3回目の公募を実施し、2件の応募があり採択されました。

1つは、大気環境に関する研究に従事する若手研究者育成事業で、事業課題名は、中国北部石炭利用工業地域における大気中の重金属成分と多環芳香族炭化水素の分布特性及び健康影響に関する研究です。もう1つは、大気環境に関する国際交流、特に日中韓交流事業で、事業課題名は、さくらはなスカイネットワーク～日中韓におけるPM_{2.5}の同時モニタリングを通じた国際大気環境交流～です。両事業の成果は、2022年の大気環境学会年会で発表予定です。

2022年6月1日から6月30日の期間で、本事業への4回目の応募を予定しています。この頃には国際会議は、virtualからrealに移行していると信じています。博士課程学生等の国際会議発表の旅費や登録料は、対象事業に該当しますので奮って応募してください。また、近隣にお知り合いの小中高教員がいましたら、共同で小中高生を対象とした大気環境に関する啓蒙活動に積極的に応募してください。心より応募をお待ちしています。